

# マスロー心理学研究会《第96回》定例会 発表資料

2019(令和元年)12月14日

担当者：森 光巧悟

上田吉一(著)『精神的に健康な人間』 1969 川島書店  
第3章 第4節 統合的人格の特性(2) p.169～180

## 【 発表内容 】

### I. 要旨・要約

[統合的人格の特性の第一・第二は前回の発表(第95回)にあるので、今回は第三から始める。]

#### (1) 第三に、統合的人格の特色は自己の行動に責任をもつ態度がみられる事である

##### ① 統合性の失われた人間において

かれの自我はかれの欲求衝動を十分に統制しえず、絶えず分裂、葛藤を繰り返し、ときに衝動に身を任せてしまう神経症的構造をもつ。そして、自我の統制に服しえない欲求衝動は、かれの意志に反した行動をとることになり、この行動に対して、自我は責任を持ちえないであろう。また、自分の行為を「他人が操る」かのように感じる作為体験をもった分裂病者についても同様である。かれは自己の行為が自らの主体的意志から動機付けられたものとは考えず、外から与えられたもののように思う。つまり、自己の行為が主体的意志によってなされていないならば、自己の行為や態度についての責任をも希薄ならしめる。したがって、このような患者の言動は、これを正常人と同様に責任ある言動と考えることはできない。

##### ② 統合された人格を持った人間において

かれは何事にも拘束されることもなく、その自我を表現することができる。統合的人格が自主的態度のとれる人間であり、自由なる人間であると形容してきた。かれの行動や態度がかれの自我をそのまま表現するものだとすれば、かれの行動のよしあしは、かれの人格全体のよしあしを示すことになる。つまり、かれの行動や態度に対し、かれは人格全体として責任を負わなければならない。その意味で、かれは自由なる存在であると同時に、責任の主体でもある。

かれがたとえ、精神的苦悩を極度にたかめざるを得ないような限界状況におかれ、そのような状況のもとにとらねばならなかった行動であっても、かれが真に統合的な人格の持ち主であるとすれば、自己の意志に反した行動であったとの弁解をとらないであろう。まして、自己の行動を環境の状況に投影し、責任転嫁をはかることもないであろう。かれはその状況に適当な行動であっても、また不適当な行動のために不適応に陥ったり、目的を遂行できない結果となっても、その行動は自我と一致し、自我の正しい表現であることを認めるので、これに対して責任をもつのである。 (※1)

##### ③ 時間的観点に立ってもいえる。

かれは時間的連続性の中で、過去の記憶を現在のなかに生かし、これをさらに未来の目標や意図のなかに織り込んでゆく。如何なる歴史的状況においても、自我の恒常的に指向するところを見失わないで、これに沿った統一的行動のとれる人は、真に責任の持

てる人というべきであろう。

## (2) 第四に、統合的人格の特質は、未来志向的である

① フロイトの人間観は、現在の行動や態度の原因となるものを過去に求め、幼児体験が現在の性格や行動を決定するものとする。また、かれのとらえる人間は、統合性に欠ける神経症的人間であり、かれの論ずる心理学は主として病的な心理学にとどまるのである。

⇕

統合的人格の概念は、このような過去に規定される決定論的立場に立つのでなく、未来を指向し、未来における自己の実現のために、そのエネルギーを集約する形をとるのである。かれは自らのうちに充溢(じゅういつ)するエネルギーをもっている。

↓

過去においては、自らのエネルギーを解発する機会は失われている。だが現在及び未来の行動に対しては、このエネルギーを解発すべき無限の可能性が与えられている。そこでかれはこのエネルギーを未来において消費すべく、その充当対象を求めることになる。すなわち、自己の理想とする目標を未来に投影しこれにエネルギーを中する形をとるのである。オルポートは、「意欲はつねに未来に抛りどころをもつことが明らかである。実際の問題として、非常に多くの精神状態は、未来によってのみ正しく述べられる。…」と述べて、正常な人間のもつ未来指向性を正しくとらえ得る心理学の必要性を明らかにしている。

② 未来を指向する統合的人格は、比較的楽観主義者であり、積極主義者である。かれは未来指向性をもつかぎり、過去に拘泥(こうでい)される存在でなく、未来に開かれた自由な存在となるのである。かれはこのようなことから、常に希望を失わない楽天主義者の一面をもつとともに、さらに現状を単に肯定するだけでなく、未来はさらに現状より前進し得るとの確信から出た進歩性と進取(しんしゅ)の気性をも兼ね備え得るのである。かれは過去に喜びや楽しさを見いだす退行的人格でもなければ、過去の失敗に無意味な病的悔恨をもちつづける精神的異常者でもない。未来に期待をかけ、そのために計画し、努力しながら、現在に生きる創造的人間と言わなければならないのである。

## (3) 第五に、統合的人格は、翼の自己を自発的に表現する人間である。

統合的人格の特色は、人格の一部が他の部分から分離、対立するようなことがなく、すべての人格部分が自我と矛盾しない形で統一せられている。かれは人格の一部に真の自己ならざるものをもたない。ロジャースも、カウンセリングの進行が、ありのままの自己を自由に表現できる人間を形成してゆくことを、次のように述べている。「かれはしだいに、自己の生理的情緒的存在から出る内奥の声に耳を傾けるようになる。そしてかなりの確に、かれは、ほんとうにまともな自己になりたいと望んでいる自分をしだいに見いだすようになるのである」と。

② ありのままの自己を表現するのは勇気のいることである。それは社会規範に触れるかもしれない。あるいは他人の感情を害するかもしれない。というよりも、まず自らのうちに作り上げられている抑圧と防衛を克服しなければならない。自己を自らの力だけで主張するときには、一般に不安を伴うものである。けれども、統合的人格は本来の自己ではない世間体にとらわれた仮面をかなぐり捨て、純粹でとらわれのない自己を自然

に表現するのである。かれは自己の一部を外に表出するのではなく、全人格を挙げて自らをあらわすといつてよい。(※3)

③ 統合的人格の自己表現は、必ずしもつねに特定の固定的目標あるいは課題に対する意図的努力の形態をとるものではない。むしろそれは意図せずにおのずと表出し、期せずして実現せられることが多いのである。理想自我と現実自我の間に完全な合一の見られる人格においては、理想自我に対応するものとしての計画と現実自我に対応するものとしての実践にずれはなく、したがってまた高遠な目的への絶えざる苦行は見られない。創造のはたらきは、統合的人格に見られる自我を中心とする統一的、総体的表現にあり、この際に見られる自我の既成のものにとらわれない独自性の表出が独創的成果を収めるのである。

④ 真に自己を表現することのできる統合的人格においては、欲求と上位自我、あるいはまた欲求と自我との間にも一致が見られる。人格の基本的欲求の満足できないままに義務的行動を行ったり、逆にまた、自己の欲求による行動に罪の意識をもったりすることなく、自らの欲求満足が同時に社会的規範にも合致し、自己の良心をも満足せしめるものなのである。(※2)

⑤ 統合された人間は、確固たる人生観を持っている。そしてすべてのエネルギーはこのバックボーンを中心として集中的に動員され、その緊張体系は特色ある個性を形成してゆく。人格の表面的外部領域のみのかかわりあいではなく、すべての人格層が、自我を中心に結集しているとき、われわれは統合せられた人格の神髄を認めることができるのである。

## II. 論点及び私論

(※1) 自己の意志で行ったことに責任を持つことは、当然のことであろう。一般の人もその覚悟はある。しかし、あまりにも大きな失敗に遭遇すると、逃げ出す人も出てくる。一生懸命何とかしようとするが、どうもできず投げ出さざるをえなくなる。借金が返せなければ、自己破産という法律の手続きもあるだろう。会社で失敗し、大きな損害を与え会社をやめる。やめたから責任が取れたともいえないだろうが。責任をどう考えたらいいか。

① 統合的人格者は、最後まで逃げ出さない人のことか。

② 最後とは、何を持って最後と言えるか。

③ 責任のとれない失敗というものがあるのか。

私論としては、ここに「責任」という概念をもってくるのは、適切ではないように思う。責任という言葉は、この場合はあまりにもあいまいであるのではないか。

(※2) 孔子の「七十而従心所欲不踰矩」の「矩(のり)をこえず」の例や『自らの欲求満足が同時に社会的規範にも合致し、自己の良心をも満足せしめるものなのである。』の社会的規範にも合致するとあるが、社会規範は、時代とともに変化し、何らかの基準も動く。矩をこえずといつても、当時の道德観の範囲は狭いのではないか。また、現在の道德観・ものの見方も10年後には変わっているだろう。社会的規範に合致する必要はなく自分の信ずるところに進めばいい、という言い方ぐらいでいいのではないか。

(※ 3)第五の④で『わたしを導き、いつも正道をたどらせてくれるもの、それは一つの衝動なのです。わたしは自由に心の欲するところに従います。それでもほとんどなんの拘束も悔恨も覚えません。』（「ウィルヘルム・マイステルの修行時代」より、p.175 ㉔.3)の例でもあるように、欲求と上位自我、あるいはまた、欲求と自我の間に一致がみられる。そして、第五の⑤に「確固たる人生観をもっている」とある。そうであるなら、第五の②の「ありのままの自己を表現するのは勇気のいることである」という言葉は、必要がないのではないか。なぜなら、「自己を自らの力だけで主張するときには、一般に不安を伴うものである。」(p.175 ㉔.7)とあるように、一般の人には勇気が必要だが、欲求と上位自我・欲求と自我の間に一致が見られる人は、その行動は自然であり不安も躊躇もないもので、勇気は必要なく自然な行為としてなされるのである。

### Ⅲ. 語句などの説明

- ・ **作為体験** —— 自分の考えや行動が、他人に操られていると感ずる体験。統合失調症に特有の症状
- ・ **離人症**(りじんしょう) —— 自分が自分の心や体から離れていたり、また自分が自身の観察者になるような状態を感じること。
- ・ **シエマ** —— 個体が環境に適応していく中で必要になる、各発達段階に固有の外部刺激や情報処理のことである。ざっくりいうと概念のことである。発達心理学ではシエマと言ひ、認知心理学ではスキーマ(スキーマ)という。
- ・ **リビドー** —— 精神分析の用語。フロイトによれば、性本能を発現させる力またはエネルギーで、快感追求的な性質をもつ。
- ・ **充溢**(じゅういつ) —— みちあふれること。
- ・ **捌口**(さばけぐち) —— 物品の売れ先。売れ口。 ※ 捌け口(はけぐち)
- ・ **エランヴィタール** —— ベルグソンの用語。生の飛躍。生物が内的衝動によって進化する生命の躍進力。
- ・ **プロプリエート(プロプリエイト)** —— [特定の人・条件・場所などに] 適した、適切な、適当な、妥当な、ふさわしい。
- ・ 「**ウィルヘルム・マイステルの修行時代**」 —— ゲーテによって書かれた教養小説。
- ・ **解発**(かいはつ) —— 動物が、同種の仲間の形態・色・音声・におい・身振りなどによって、求愛・採餌・威嚇(いかく)などの行動を誘発されること。その特定の反応を引き起こす要因をリリーサー(解発因)という。
- ・ **プロプリエート(propriate)** 適切な。 ※ Appropriate あてる、充当する。
- ・ **拘泥**(こうでい) —— 1つのことにこだわって周りが見えなくなること。
- ・ **進取**(しんしゅ) —— 従来の慣習にこだわらず、進んで新しいことをしようとする事。
- ・ 「**七十而従心所欲不踰矩**」 —— 七十にして心の欲する所に従ひて矩(のり)を踰(こ)えず。 矩(のり・さしがね) —— おきて。きまり。

アンリ=ルイ・ベルグソン(1859～1941) フランスの哲学者。

『創造的進化』ダーウィンの進化論における自然淘汰の考え方では、淘汰の原理に素朴な功利主義しか反映されていない。しかし実際に起こっている事態は異

なる。それよりはるかに複雑かつ不可思議な、生を肯定し、生をさらに輝かせ進化させるような力、種と種のあいだを飛び越える「タテの力」、「上に向かう力」が働き、突然変異が起こるのである。そこで生命の進化を押し進める根源的な力として想定されたのが、“elanvital”「エラン・ヴィタル生命の飛躍(生の飛躍)」であると考えた。

**オルポート, G.W. (1897 ~ 1967)** アメリカの心理学者。

著作には、『人格の形成—人格心理学のための基礎的考察』や『個人とその宗教』がある。個人のパーソナリティの中でとりわけ優勢な特性とは何かといった議論を主に展開している。つまるところ、パーソナリティの発達の中で大きな役割を果たしている特性の研究が中心的な関心事である。パーソナリティというものが顕著な力となっていくとき、それはとりわけ基礎特性によるところが大きい。中心的な特性と基礎特性は、環境因子によって大きく左右される。

**アルフレッド・アドラー (1870 ~ 1937)** オーストリアの精神科医・心理学者

個人心理学(アドラー心理学)を創始。

**共同体感覚** —— それが発達している人は、自分の利益のためだけに行動するのではなく、自分の行動がより大きな共同体のためにもなるよう行動する。なぜなら、人間は社会という網の目の中に組み込まれているからである。それに対して、共同体感覚が未熟な人は、自分の行動の結末や影響を予測することをやめて、自分の利益だけしか目に入らないようにする。

**器官劣等性** —— 身体機能等について、客観的に劣っていること。例えば、弱視という器官劣等性がある場合、その人は、その器官劣等性を巡って人生上何らかの決断を迫られる。

**劣等感** —— その人が主観的に「自分は劣っている」と感じること。

**劣等コンプレックス** —— 劣等感を使って、ライフタスクから逃れようとする。例:自分は頭が悪いので勉強をしても無駄だ。

**勇気づけ** —— その人が、その人の日常生活における困難を解決するよう援助することを勇気づけという。したがって、勇気づけることの目的は、相手が自分の日常生活の困難を解決すべく行動するようになることであって、相手の気分をよくするというわけではない。

**プレスコット・レッキー (1900~1941)** アメリカの精神科医・心理学者

著書:「自己統一の心理学」「自己イメージの心理学の魔法の力」

人格というものを、互いに矛盾しない数々の思考の集合体であると考え、それらと矛盾する心構え、その集合体との参加を拒否され、矛盾しないものは受け入れられると主張した。

**エドゥアルド・シュプラランガー (1882 ~ 1963)** ドイツの教育学者・哲学者・心理学者

彼はディルタイの世界観論に依拠しながら人間の『生の諸形式』のいわばカタログを作り上げた。それにより、理論的、美的、社会的、経済的、そして宗教的な人間、ならびに権力的な人間が区別された。これらの基本的な類型、なかでも経済的人間という表現に、シュプラランガーは独自の概念規定を付け加えたが、これらの類型を人間の発達の諸段階の中で具体的なものとして描いて見せた。

**ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ (1749-1832)** ドイツの詩人・劇作家・小説家・自然科学者。 小説「若きウェイテルの悩み」 詩劇「ファウスト」

孔子(紀元前 552 ～ 479) 中国の思想家・哲学者。

儒家となり諸子百家の一家となる。弟子たちが、孔子の言葉を集め「論語」を編纂した。

#### IV. 関連の話題 【原稿を書いているとき、関連でおもった事】

##### 話題 その1 (インターネットより)

###### ① 「天才は1%のひらめきと99%の努力」(トーマス・エジソンの言葉)

『私(エジソン)は1%のひらめきがなければ、99%の努力はむだになると言いたいのだ。なのに世間は勝手に美談に仕立て上げ、私を努力の人と美化し、努力の重要性だけを成功の秘訣と勘違いしている。』(エジソンの著書より)

これを掘り下げていくと、1%のひらめきがあれば、99%の努力は苦じゃないという意味にとれ、エジソンがどれだけひらめきを大切にしていたかが分かる。私は、エジソンの名言の真意を「努力があるからこそ1%のひらめきがありひらめきがあるからこそ99%の努力ができる」と捉えている。

###### ② 「99%の努力と1%のひらめき」

この格言は「1%のひらめきがあれば、99%の努力も無駄になる」というのが真意だった、と取り上げられています。かれの母国アメリカでは、この言葉は「天才には努力が必要」という意味で使われているようです。ここで筆者が提唱したいのは、ひらめきとは「努力を効率化するための工夫」だということです。未だに日本では「努力とは、長時間頑張ること、自分に負担をかけること」という雰囲気根強いままで。そう語るの、脳科学者の中野信子さんです。(中野信子著『努力不要論』) 発表者も同感です。身の回りにも、テスト前に「全然寝てないんだ」と自慢したり、就職活動で「10個も企業のブース回ってさ」とアピールしたりする人が多くいます。確かに長時間の頑張りが必要な時もあるでしょう。ですが、それが、全てではないはず。自分の目標を見つめ何が必要なのかを把握し、計画的にそれを実行する。そして随時軌道修正を行う自分を俯瞰し最短距離を走り続けようとするその姿勢が、Inspirationであり、ひらめきではないでしょうか。他人の発明であっても、より効率的な方法を探して改良を続けたエジソンの生き様からは、そんなメッセージが感じられるように思います。

一つの諺でも捉え方が少し違うが、両方とも前向きでしっかりした考え方でいいと思いました。見た人が、より心にしみる方・納得した方を選んだらいいのだろう。個人的には②の方が合う。①の場合、努力を繰り返しているとき、偶然発見した人や失敗作から本物が生まれたり、ひらめきと関係ないこともあるので、また、ひらめきというものが具体的に分かりにくい。②は、努力の方法も、ひらめきの意味も分かりやすい。

##### 話題 その2

自分の国(日本)は将来どうなるか。17歳から19歳の1000人による調査の結果である。

よくなる	9.6 %
変わらない	20.5 %
悪くなる	37.9 %
わからない	32.0 %

7 か国ぐらゐの調査で、「よくなる」と答えた人の割合は、だんとつで日本が一番低かつたようである。自分の国に将来に明るい希望を持たない若者が多いという事は、実に悲しい限りである。バブルがはじけて生まれてきた子どもたちにとって、活気がある世の中はえがけないだろう。これは、政治にも責任があるだろうが、教育にも問題があろう。知識の詰込みだけでは、豊かな想像力は生まれない。自分で問題を見つけ、考えるという事をさせてこなかつたからだろうか。あるいは私の考えが小さく、今は成熟社会になりつつあり、車は持つものでなくシェアするものである。大きな会社に勤めなくとの何とかやっつけていける。小さな喜びでも十分楽しい。ワクワクする未来でなくとも、ほっこりできたらいい。

### 話題 その3

高齢者の万引きが増えている。

現状逃避、意志の弱さ、衝撃的なものが欲しい、経済的に苦しいと理由は様々であろう。個別にきくと、自分は精神が弱くダメ。金がなくなるとイライラして衝動をうまくコントロールできない。一人でいるのがよくない。話すのが苦手で、地域に溶け込めない。駆け込み寺があればいい。誰でも気軽に相談できるところがない。

多くの老人には未来がえがけない。オルポートの言うように、「意欲はつねに未来に抛りどころをもつことが明らかである。実際の問題として、非常に多くの精神状態は、未来によって正しく述べられる。」

未来への希望をどう持つか。

ダメージを受けた人へのアドバイスは？ フォローは？

他人ごとではない。日々の生活を如何に過ごすか。

老人の生きがいは。

### 話題 その4

人間は、大きいストレスがかかると、一時期パニック状態になり、神経症的状态と言つてもいい状態に陥る。その大小なり、時間の長短はあるだろう。しかし、確実にその人に、ダメージを与えたことは間違いない。

- ① 受験に失敗する。
- ② 失恋をする。
- ③ 仕事上のトラブルで、上司や仕事先とうまく行かず窮地に陥る。
- ④ 子育てがうまくいかない。
- ⑤ 理不尽な事故にあうなど。

このような時、人間は思考停止になったり、日頃と違う行動にでたりすることがある。一時的にしる、その状態から抜け出したいと考えたりする。

- ① これは現実ではない、なにかの間違いだ。明日になったら合格通知が送られてくるに違いない。

- ② 誠意が足りないんだ。もっと尽くさねば。
- ③ あいつが無能だからうまく行かなかったんだ。または、自分は無能だ、ダメな人間だと感じてしまう。
- ④ 子どもをたたいてでも、言うことをきかす。自分もそうして大きくなった。
- ⑤ 交通事故にあい、現実が受け入れられない。そして、こういうストレスは、時間が経って癒えたかにみえても、何かのはずみでフラッシュバックすることもある。

ストレスで未来がえがけない人がいる、一法で、過去の貧しい生活から抜け出すため、頑張っただけで金持ちになる。両親へのお金の取り立ての無慈悲な行為をみて、弁護士になろうとした。母の病気を見て、自分は医者になろうと思った。アドラーも子どものころ病気で、将来医者を目指したようだ。ストレスや苦しみをバネにして、プラスにできる人の違いはなにか。どうしたら未来を見られるか。下をばかり見ている人に、どうしたら前を向かせ未来を探させ得るか。

## 話題 その5

現状をみて、未来指向的でなければならない、ということはオルポート・アドラー・マズローも言っている。自己実現をなすためには、絶対必要なことである。ただ、過去にトラウマを持った状態を如何に脱するか。そうでないと、なかなか前を見れない。未来に希望を抱けない。

## 話題 その6

欲求・自我・上位自我が一致している人とはどういう人か。私が思いつくのは、僧侶である。仏陀が悟った真理を求める人たちが、サンガ(共同体)を作り修行をつむ。欲望を極限までそぎ落とし、ただひたすら真理をもとめる。こういう人たちならありうるだろう。ただ、この人たちを支える人たちもいる。一般大衆である。こういう仕組みがあって初めて成り立つ。私が思うに、仏陀はこれをも全て含めて真理の追究を考える人をサンガに集めさせたと考えられる。普通の人には、極限まで欲望をそぎ落とすなどできない。お金におぼれたり、性欲に翻弄されたり、自然の恵みに喜んだり、自然の力に膝をつき悲しんだりするのが、一般の人である。僧侶のような聖人にもなりたいが、そこまでは無理である。欲望もみたしたい。それならば、その僧侶を支える人になればいい。汗水ながして田を耕すこともすばらしいのである。そして、托鉢している僧侶にお米をわたす。僧侶も有難う。農民も有難う。この関係が社会である。原始仏教がこれであろうと考える。

しかし、ここに大乘仏教が生まれた。私論としては、一般の人にも、そのままで僧侶の目指す世界を味わいたいと考えた。欲望を持ったままでは到達できない世界に、なんとか行こうとする欲望をかなえるために考え出されたのが、大乘仏教ではないだろうか。仏教徒でない私が言うのも変かも知れないが、仏陀を尊敬するものとしては、この現状を仏陀がみれば、これも方便だろうというのであろうか。

なぜ、大乘仏教が起こったか。そこには色々な要素があると思う。内部分裂。目に見える形で一般民衆を救う。仏教徒にとどめる。ヒンズー教(バラモン教)との神学論争、及び戦いもあったかもしれない。イスラム教が攻めてきた。武力を持って戦わなければならなくなった。バラモン教のシバ神などが、阿修羅・毘沙門天・不動明王・

大自在天に連なるのであろう……………。

## 【 討議事項 】

1) 前回に続き、「統合的人格の特性」の残り〈責任〉〈未来志向〉〈真の自己の自発的表現〉についての発表である。上田先生の博士論文を輪読・解釈を試みているが、われわれにはやはり難解な箇所が多く手を焼いている状態が続いている。しかし、今回の発表者はそのなかで極力難読文字にその意味を抜き出し、また文中に引用された心理学者の解説をする努力をなされ、私論の話題を提供して頂いた。ご努力に対し、感謝申しあげる。

ただ今回も書記が追いつかず、いろんな意見を正しくお伝えするには至っていないことをお詫びし、意見の発表者にはご自分の伝えたい意の不十分な点があれば、その点をお教え頂きたいとお願い申し上げます。

今回は、上田先生の著書の内容〈責任〉〈未来志向〉〈真の自己の自発的表現〉に従うも、我々会員の意見の交換が中心と成りがちであることを先にお断りしておきたい。

### 2) 「責任」について

「責任」とはどのようなことなのだろうか。どうすることによって責任の最後といえるのだろうか。

個人が生きるということは「ひとりだけで生きる」「自分だけが良い目にあっておればそれで良い」ということではなく、〈人〉問氏が表すごとく、互いに支え合って生きる、互いに関係性がある、ということの意味している。そこに「責任」ということが生じるのである。

そこで辞書を引いてみると「①自分が引き受け行なわなければならない任務・義務を果たす。②自分がかかわった事柄や行為から生じた結果に対して負う義務や償い。③法律上の不利益または制裁を負わされること。民事責任と刑事責任とがある。」(『辞林 21』、三省堂)とある。

a) 生きていく上での任務・義務を果たさなければならないことがあるということ、b) かかわった事柄や行為から生じた結果に対して負う義務があるということがわかった。a) からは、閉じこもりで人にかかわらない、または自分さえ良ければそれでよいのであれば、責任から逃げているととることができる。b) からは、どこまで、どのように義務を負えばいいのか、その範囲、大きさ、そしてその方法はどうすればいいのか問われる。

たとえば、教育者としての道を歩み、子どもたちとかかわってきた者は、職にあるときは、教育者として子どもを育て、教えるということに責任がある。それは、子どもたちの心を理解し、支え、励まし、わかりやすく教え、子どもが理解し、応用できるように導くことである。しかし、手に負えない子がいたとして、自分の手には負えないと見放してしまうのであれば、それは責任放棄になってしまう。できる限界(ケースにより異なるが)まで工夫し、その子にとって社会に出たとき、ある程度の自信を持って生きていけるといところまで育てることが、教師にとっての役割であろう。たとえば、暗記科目であるといわれる社会科で、子どもたちにいくら知識を詰め込ませたとしても、それらを通して社会に生かせるものでなかったとすら、本当に意味あるものでないといわれても仕方がないような気がする。「なぜ、こうなるのか。どうすれば解決できるのだろうか、どう工夫すればいいのか」といった工夫・応用できる視点をも養っておくことが必要なのではなかつ

たのかと思っている。この反省の中に「責任」を考えていることがわかりいただけるだろうか？

### 3) 「自発的表現」について

ここで「自発的」ということは、自分で無理に意図してある目標レベルに達するのではなく、ごく自然に今ある、ありのままの自分を表現するということであろう。つまり、ある義務感や故意に見せかけの姿を表現しようというのではない。

「あるがまま」というのは難しいことであるが、自分の弱いところ、見にくいところ、嫌なところ、弱点を見せかけでよく見せようとするのではなく、あえてそのままの姿を認めて受け入れることをいう。

ここで問題になるのは、「努力」との問題である。あるがままでいいのなら、何もしなくていい、というのだろうか。勉強なんかできなくていい。頑張らなくてもいいんだ。無理して嫌なことをしなくていいんだ。脳科学者の中野信子氏の『努力不要論』という著書のタイトルからだけでは、確かにそう読み取れるだろう。

しかし、人間は一生人格を成長させなければならない存在の面をも無知合わせる存在でもある。そのためには「何もしなくて、ただ楽をしていていいのだ」といえるのでしょうか。決して無理に無理を重ねて自分を伸ばせ（ある意味「努力」をせよ）というのではありません。何もしないで自分を伸ばすことができるのでしょうか。「ありのまま」というのは成長しなくてもいいというではありません。ごく小さな一歩でも進めば（改善すれば）いいのではないのでしょうか。自分の持っている何らかの可能性を伸ばす、自己実現につながるのではないのでしょうか。

「あるがまま」でいることに対して一方では「努力」が必要という考えがある。これらが弁証法的に発展する考えが必要なのではないだろうか。

「七十而従心所欲不踰矩」 話題 その2からみて、発表者の意見は、それはそれでよい、と思う。社会規範は時代とともに変化することはあり、基準も異なってくる。よって自己の信ずるところに進めば良いということにも賛成だ。ただ、その社会規範がその時代に合ったものであるにもかかわらず、自分さえよければそれで良い、勝手であるというような個人的な考えは批判されるだろう。

※3の「第五の②の「ありのままの自己を表現するのは勇気のいることである」という言葉は、必要がないのではないか。」

「ありのままの自己」というのは、自然体の自己であり、よって自然のままの自分の行いが、自然に発言するのであるから、発表者がいうように、あえて勇気のいることになるのだろうかという疑念に賛意することができる。自分の信ずるところに進めば良いし、信念を持って生きていた人や人格者と言われる人は、しょうもないことは問題にしない。価値観の違う人であっても大きく包み込んで行くことができるだろう。(?) 過去は過去で無意味な悔恨を持っていてもダメである。どうしたら、未来志向になれるのだろうか？

### 4) 「未来志向」について

① どうしたら未来志向になれるのか？

目標をどうやって持つか……自分にとって思い出したくもない嫌なこと、傷ついた経験などはできるだけ忘れてしまうことも1つの方法だろう。期待を持って、これからどうしようかとか、何を目標にしようかとか考え、計画をし、着実に実行努力しながら〈今〉を生きる。今を充実させる。やりたいことに没頭してみる。できるだけ健康に努めよう。前を向く。勘をどう捉えるか。「前向き」に意味づけできる。

40 年ほど前、精神医学者、島崎敏樹氏は名著『生きることは何か』の中で「目はなぜ前を向いて付いているのか」と考え、「前を向くということは、過去のことに関われるのではなく、前に向かって歩むために前向きに付いているのだ」という趣旨のことを書いておられた。つまり、夢・希望・自分の信念などに向かって強く生きることの重要性を説いたのである。未来に向かって希望を持ち、目標を持って歩むこと、生きること＝未来志向の意義を読み取ることができる。

ある事件に関わることを隠すということは、(心の)健康な人間に結びつかないのではないか？ 運のないことが続いたり、同じようなことが度重なる悲しみなどを、自分の内に閉めておくということは、本当にその人にとっては辛いものではないだろうか。それをわかってくれる人に打ち明けたら……。また、聞いてもらうだけで気持ちが和らいたり、ときには晴れることもある。電話カウンセラーで「悩みを聴くだけでよい」といわれる意味は、こういうことなのだろう。そこから、前向きになれる路が開けるかもしれない。

## 5) 話題 その2 との関連で

「日本の国は将来どうなるか」ということについての意識調査の結果から見て、「悪くなる」という意見が 37.9 %もいる。悲観的な見方をする人が多い。とくに若者に…。原因・責任の問題はいろいろあるだろうが、ここから「自分のことだけに閉じこもるのではなく」かといって大言壮語でもまく、互いに信じ合える関係性を持ち、ほっこりとした気持ちを持ちたいものだ。時にはワクワク心の高揚感も味わえれば……。

一方、高齢者には、未来への希望を持てる社会なのだろうか？ 退職後 2000 万円の準備が必要だといわれても、とてもそんな大金を用意はできない。「話題 その4」にみられるように、ストレスの多い社会である。〈潰れていく人〉〈何クソとフンバル人〉いろいろな人がいる。その違いはどんなところにあるのだろうか。その理由は何なのだろうか？ 世の中がこれから先良くなると見ている人は、どこが、どのようにしてよくなると見ているのだろうか？ 「温故知新」という言葉も大切だ。葛藤はあるものの、光明を見出すための努力も必要だろう。

故人の平々凡々とした暮らしを認められていい。しかし、自分さえ良ければあとはどうでもいいというのはどうなのだろうか。世の中は「ひとりだけ」で生きていけるものではない。

いろんな意見はあるだろうけれど、やはり未来志向でなければならない。そのためにも自我の確立と心豊かな成熟社会（他者の立場も考慮し、共に生き、智治育ちあう社会）の融合を目指さなければならない。